



先進・情熱・思いやり

討議資料

あす
未来の奥州市を切りひらく！

菅原よしかず後援会 後援会報 Vol. 1

後援会へのご入会、誠にありがとうございます

菅原よしかず ごあいさつ

議員として活動をさせていただきましてから、早いもので8年の歳月が経過しようとしております。日頃より皆様方には、温かいご支援とご指導をいただいておりますことに、心から感謝と御礼を申し上げます。

私たち地方を取り巻く状況は、人口減少や少子高齢化の進行をはじめとして、社会環境は急速に変化を続けております。また、地方自治体では税収の落ち込み等による厳しい財政状況もあり、高度化・多様化する住民ニーズに十分に答えきれていないのが現状です。

こうした目まぐるしい急速な時代の変化に柔軟に対応をしていくことができる、そして将来に持続をしていくことができるまちづくりが求められており、今後のまちづくりのあり方は大きな転換点を迎えているものと認識しております。

そこで、地方を取り巻く厳しい環境の中で効果的に施策を進めていくためには、行政と企業や各種団体、そして市民がそれぞれの役割と責任をもって連携・協働していくことが重要です。そして、新しい公共のかたちである「公民連携」により、民間の培ってきた経営感覚や効率性、あるいは技術をはじめとする多くのノウハウを取り入れていくことが、地域の諸課題や住民ニーズにきめ細かく迅速に応え、地域の発展と「真の豊かさの実現」に繋がっていくものと思っております。



奥州市誕生から丸12年を向かえる今日、次の新たな未来を見据え果敢に挑戦をしていかなければなりません。過去や常識にとらわれない新しい発想や斬新なアイデアによる変革で、すべての市民の皆様が「笑顔で生きがいを持って暮らせるまち」、そして、子どもたちや若者が「将来に夢と希望をもち、力強く前へ進むことができるまち」を目指して、皆様の声にしっかりと耳を傾け、手を携えながら一歩ずつ着実に取り組んで参りたいと思います。

菅原よしかず街頭に立つ

菅原よしかずは、毎週月曜日（ただし所要行事により不在となる場合を除きます）、通勤時間帯に水沢南地区において（右図参照）街頭に立ち、議会報告と政策を訴えております。


未来（あす）の奥州市に夢と希望をもち、力強く前へ進むことができるまちづくりを実現するため、

**菅原よしかずは
一生懸命働きます。**



菅原よしかずが目指す奥州市とは

未来の奥州市に夢と希望をもち力強く前へ進むまちづくり

 人口減少社会に対応したまちづくり

 I L Cを基軸としたまちづくり

絆で育む

『人づくり』

将来を担う子どもたちを
健やかに育む
教育・子育て環境の整備
のために働きます。

○都市化や過疎化、核家族化、少子化などにより、地域や子ども同士の交流機会が減少し、「社会性」や「協調性」が育ちにくく、成長や発達に大きな影響を及ぼしていると言われていています。子どもの豊かな人間形成のために、学校・家庭・地域が連携と協力をしながら、地域で子どもを育てる体制が必要です。

○子どもの将来が生まれ育った環境で左右されず、等しく充実した教育機会を確保するためには、世帯の経済状況のみならず、教育や成育環境等、子どもを取り巻く状況を多面的に把握をした上で、学習支援や家庭教育支援等も含めた総合的な支援や対策が必要です。

○若者が、地域活動や市政等のあらゆる場面で、持てる能力を最大限に発揮できるよう、若者の思いや意見を伝えられる機会の確保と反映するしくみをつくり、若者が自ら考え行動する「若者が活躍するまち」を目指した環境整備が必要です。

活力みなぎる

『産業づくり』

農業・商業・工業発展のための
条件整備を図り
就労機会の確保と
雇用の安定
のために働きます。

○企業誘致や内発型産業の創出、農商工連携、6次産業化、起業支援など、一体となった取り組みを進めるために、関連団体と連携し核となる人材を配置した「(仮称)産業振興支援センター」等の支援体制が必要です。

○ILCは多くの可能性を秘めたプロジェクトであり、奥州市の将来に大きな夢や希望を与えることにつながります。ILCに関わる世界最先端の技術から、新産業の創出や技術革新が期待されており、産学官連携の強化や地元企業への支援、新たな工業団地の整備による関連産業の集積促進等、積極的な施策の展開が必要です。

○地域ブランドとは、物産品の開発や購買、観光による一部分の経済的拡大だけではなく、住みやすさや産業も含めて地域そのもの「奥州市」をブランド化することです。地域全体を見据えたブランド戦略の確立とICTの活用による積極的な広報戦略が必要です。

安心して暮らせる

『まちづくり』

健康でいきいきと暮らせる
医療・福祉・高齢者支援の充実
安全で快適に暮らせる
防災・防犯・交通安全対策の充実
のために働きます。

○誰もがいつでも安心して良質な医療が受けられるよう、公立病院の役割を明確化するとともに、民間の医療機関と連携した機能分担による地域医療体制の確立が必要です。

○年齢や性別、心身の障がいの有無に関わりなく、誰もが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、身近な地域における相談体制や効果的な福祉サービス提供の仕組みづくりが必要です。

○子どもが巻き込まれる犯罪や熊の出没、地震や大雨の自然災害等、緊急時における迅速で正確な情報伝達手段の整備が必要です。

菅原よしかずの奥州市議会における一般質問の紹介

絆で育む『人づくり』～教育・子育て環境の整備～

●子どもの貧困対策強化を（平成29年第3回定例会）

質問 子どもの貧困率では具体的な対策には繋がらない。各種指標や剥奪指標などを実態として掲げ、対策の実施と効果の検証・見直しをしていくことが貧困対策と考える。早期に調査を実施し、実態に即した対策を検討すべきと考えるが如何か。

市長 実態把握の第一歩として、今回、児童扶養手当受給者世帯を対象としたアンケート調査を実施した。この結果や、この間の事業の成果と課題も検証しながら、今後の調査のあり方を検討していく。

●家庭の教育力向上に向け、家庭教育支援の充実を（平成27年第1回定例会）

質問 青少年犯罪の増加や凶悪化をはじめ、いじめや自殺、不登校など青少年を取り巻く問題が深刻化しており、特に家庭の教育力低下が問題の深刻化を招いていると指摘されている。保護者の自主性を尊重しつつも、地域で支える家庭教育支援の充実を図るべきと考えるが如何か。

教育委員長 子どもの健全育成には、学校・家庭・地域の協力が必要である。また、今、学福融合とも言われ、学校と福祉の一体的な取り組みが重要と考える。教育事務所や健康福祉部、民生児童委員連合協議会等の関係機関と連携するとともに、適切な家庭教育支援のあり方を検討していく。

活力みなぎる『産業づくり』～就労機会の確保と雇用の安定～

●産業支援センター設置による、支援体制の確立を（平成27年第2回定例会）

質問 産業振興と雇用創出を強力に推し進めていくためには、市のみならず、関係団体と連携し一体となった取り組みが必要と考える。コーディネーターやインキュベーション・マネージャー等、核となる人材を配置した「(仮称)産業支援センター」を設置し、産業・就労支援のワンストップ化を図るべきと考えるが。

市長 専門知識を持つコーディネーターの活動拠点として、産業支援施設の設置を検討している。中小企業への情報提供をはじめ、技術支援や人材育成支援、創業支援や6次産業化支援等にも取り組めるワンストップ体制を念頭に検討している。また、今年度は、コーディネーターの一人を創業支援の専門職となるインキュベーション・マネージャー養成講座に派遣し、資格取得を目指す。

●雇用創出目標を掲げた対策をせよ（平成28年第3回定例会）

質問 「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」には、企業誘致件数の数値目標しかない。雇用創出目標を掲げた対策をすべきではないか。

市長 企業誘致の件数をカウントをしていくことは出来るが、雇用人数を把握していくことは難しいと考えている。把握が出来るのであれば、しっかりと把握をしていきたいことから、今後どのような方法があるのか研究していきたい。

安心して暮らせる『まちづくり』～医療・福祉・高齢者支援の充実、防災・防犯・交通安全対策の充実～

●緊急告知ラジオを全戸配布せよ(平成28年第4回定例会)

質問 災害時の情報伝達手段はコミュニティFMを核とし、緊急時の自動起動に対応する緊急告知ラジオを全戸に無償貸与すべきと考えるが。

市長 緊急告知ラジオと緊急速報メールが核と考える。難聴地域の解消に取り組むとともに、緊急告知ラジオの全戸無償貸与については検討していく。

●ダブルケア(介護と子育ての両立)支援策の充実を

(平成29年第4回定例会)

質問 ダブルケア問題に対する市の認識は。

市長 団塊世代の介護と団塊ジュニア世代の育児が重なる「2025年問題」として、全国的に増加が予想される。家族の心身の負担は大きく、配慮や支援が課題であると認識している。

質問 ワンストップの相談窓口を開設すべきと考えるが。

市長 現在も複合的な困難な状況を確認しながら、関係機関の相談窓口につないでいる。現段階での開設は難しいと考えているが、今後の社会情勢を見据え、先進地の取り組み等も参考にしながら対応していく。



その他の一般質問

- 合併10年の効果と課題を検証し市民と共有せよ
- 国体に係る施設利用制限は
- 地方創生戦略の策定は
- 「人口減少の危機!!」対策を明確にし、積極的な取り組みを展開せよ
- 公共施設の見直しは、手順を踏み市民との合意形成を図りながら進めよ
- 若者参画の環境整備と若者政策の充実を
- 公共施設白書を活用し取り巻く現状を市民と共有せよ

菅原よしかず これまでの活動

＝議会改革検討委員会・議会広報編集委員会＝
～奥州エフエムを活用した情報番組の放送を開始～



議会活動に関する情報公開の徹底と広報活動の充実を図り、議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、奥州エフエムを活用した議会情報発信番組の放送を開始しました。番組には議員自らが出演し、議会の仕組みや様々な活動を伝えています。これは県内の議会では初の取り組みです。また、議会専用のフェイスブックとツイッターも併せて開設し、タイムリーな情報発信をしています。いずれも議会広報編集委員会の委員長として立ち上げに関わって参りました。

＝ILC(国際リニアコライダー)議員連盟＝
～国会議員へ誘致実現に関する要望書を提出～



奥州市議会ILC議員連盟において、超党派国会議員で組織する「リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟」の河村建夫会長(山口3区)をはじめ、県選出国会議員に対して、早期に国内誘致を表明し、日本主導の国際プロジェクトとして進めるための体制整備を国に働きかけてもらうよう要望書を提出しました。また、同日に文部科学省の担当職員からILC誘致に向けた検討状況等について説明を受けました。

＝菅原よしかず その他の活動＝

～子どもたちの健全育成に取り組む～

菅原よしかずは3人の子どもの父親でもあり、議会活動の傍ら、水沢南小学校区子ども会育成会連合会会長や水沢南中学校PTA会長として、子どもたちの健全育成に取り組んで参りました。
(下写真)防災体験学習会で挨拶する菅原よしかず



(左上写真)
会派「奥和会」にて、奥州万年の森太陽光発電事業現場を視察

(右上写真)
水沢南自治振興会にて、指定管理者制度導入に向けて秋田県湯沢市を視察

(左写真)
ILC勉強会で講師を務める

菅原よしかずの支援の輪を広めましょう！！

ご親戚やお知り合いの方をご紹介ください。

菅原よしかず後援会

〒023-0816 奥州市水沢区西町5-27
TEL0197-23-7591

<https://ousyu-yoshikazu.net/>

